

令和 3 年度 学校自己評価表 (報告)

学校運営方針		有恒学園の創立者増村朴齋先生の精神に則り、生徒の徳性を涵養し、進んで社会に貢献する人材を育成する。 1 基本的な生活習慣の確立と学習習慣を定着させ、自立した生徒を育成する。 2 生徒の進路実現に向け、個に応じたきめ細やかな支援をする。 3 母校愛と地域理解を深めるとともに、生徒一人ひとりの人格形成と豊かな人間性を育む。 4 地域に根ざした学校として、同窓会や地域との連携を深め、地域に貢献する。 5 教員の働き方の向上を図り、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるように取り組む。			
昨年度の成果と課題		令和 3 年度の重点目標		具体的目標	
(生徒指導) 朝の立哨指導により、生徒の身だしなみへの意識が高まり、服装は改善されてきている。挨拶を自分から進んでする生徒がまだ少ない。引き続き挨拶の励行に努めていく。 スマートフォンの使用について繰り返し指導を受ける生徒がいる。今後もスマートフォン使用の約束きまりを守るよう、職員が統一した指導を継続していく。 清掃の指導について、生徒の状況を把握し、やるべきことをしっかりとできるよう指導方法を工夫していく。 SNSに起因した人間関係トラブルが増加傾向にある。意識啓発に努めるとともに、適切な指導を早期に行っていく。		教科指導の充実による基礎学力の定着と生徒の主体的な学びを実現し、学習習慣の定着を図る		・学習習慣を身に付けさせ社会に必要な基礎学力の定着と向上を図る。 ・教材や指導の工夫をし、主体的に学ぶ意欲が向上する授業を実践する。	
(進路指導) 進学では、4年制大学への進学者は8名とやや増加した。就職は一次応募の時点で合格内定率が80%と健闘し、最終的には100%の就職内定を維持できた。 進学では、学校選抜型推薦(推薦入試)や総合型選抜(AO入試)による合格が大半を占めている。今年度は一般入試での受験者はいなかった。共通テストや一般入試受験者と同等の実力をつけ進学させることが課題である。 就職は、生徒の適性・能力を自身で把握し、主体的に企業選択を行い、面接指導などの準備を早めに進める。		基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上により安心安全な学校環境の充実を図る		・基本的な生活習慣を身に付けさせ、規律ある学校生活をととして、意欲的に学習に向かう姿勢を定着させる。 ・自己の生き方、社会との関わりについて探究的に考える姿勢を身に付けさせる中で、進路意識を高め、進路目標を明確にし、進路希望を実現できる力を育成する。	
(学習指導) マルチパーシクを始め、授業をととして基礎学力の習得と定着を図っている。様々な学習歴を持つ生徒に対応するための授業改善が課題である。各教科で指導内容や指導方法を検証し、生徒の主体的な学びやユニバーサルデザインを意識した工夫改善を行うなど、引き続き、授業方法や教材研究に取り組む。		キャリア教育の推進と進路希望の実現		・進路希望達成に向けた取組を充実させる。 ・自己の生き方、社会との関わりについて探究的に考える姿勢を身に付けさせる中で、進路意識を高め、進路目標を明確にし、進路希望を実現できる力を育成する。	
		生徒会活動や奉仕活動により社会性や豊かな人間性を育む		・生徒の主体的な活動を支援することで生徒会活動を活性化し、人間的な成長を促す。 ・奉仕活動をととして社会の一員としての意識を高める。	
		保護者や同窓会、地域等との連携を強化する		・PTA活動、同窓会活動、地域の行事等を通じて、保護者や同窓会、地域の方々との連携を深める。 ・各種たよりやホームページなど学校からの情報提供に努めるとともに、学校案内、学校説明会などの工夫改善を行う。	
重点目標	具体的目標	具体的方策			評価
教科指導の充実による基礎学力の定着と生徒の主体的な学びを実現し、学習習慣の定着を図る	社会に必要な基礎学力の定着と向上を図る。	①生徒の学習状況や特性を踏まえ、基礎的な学力が身に付くよう教材の工夫をする。	各教科	A	A
		②授業アンケートや互いに授業を参観することなどをととして、指導方法の工夫・改善をする。		B	
③マルチパーシクの授業において、基礎学力の定着に必要な指導を丁寧に行う。	B				
	主体的に学ぶ意欲の向上を図る。	①授業における目標と、その目標に到達するための道筋を示すことなどにより、生徒が意欲的に学びに向かうよう指導する。	各教科	A	
		②基礎力診断テストや事前・事後指導をととして、学習のつまずきを確認するとともに、継続して学習することの重要性について指導する。		各学年	
基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上により安心安全な学校環境の充実を図る	保護者とも連携し、基本的な生活習慣の確立及び身だしなみの徹底を図る。	①朝の玄関指導を年間4回実施し、時間を守る意識を高める指導をする。	生徒指導部	B	
		②服装頭髪検査を年間9回実施し、生徒としてふさわしい身だしなみを身に付けさせるよう指導する。		A	
		③全校集会や玄関指導等をととして挨拶の励行について指導する。		B	
		④生徒の欠席、早退、遅刻の把握に努めるとともに、規則正しい生活を送るよう集会やホームルームで指導を継続的に行う。		B	
	規律ある学校生活を送らせ、落ち着いた学習環境を整える。	①スマホに関する約束きまりを徹底させ、係指導を受ける生徒を前年度よりも減らす。		B	
		②機会あるごとに学年やクラスの状態を確認し、学年と連携しながら必要に応じ学年集会等で指導する。		A	
	交通安全指導を推進する。			①バイク実技講習を年間2回実施する。	A
				②交通講話を実施する。	A
				③事故、違反が発生した場合、直ちに全体指導や個別指導を行い、再発防止に努める。	A
				④交通安全指導を推進する。	A
心身の健康の保持・増進を図り、主体的に健康な生活を送るための実践力を育てる。		①健康診断を確実に実施し生徒の健康実態を把握するとともに、必要な治療・検査を促す。	保健	A	
		②健康課題の把握に努め、課題解決のための健康教育、保健指導等を実施する。 1年生：食に関する講演会 2年生：エイズ・性感染症予防講演会 3年生：性に関する講演会、薬物乱用防止教室		A	
		③定期的に保健だよりを発行し、健康への意識向上のための啓発を行う。		A	

	特別支援コーディネーターを中心に外部とも連携し、生徒の情報共有を図り、人間関係作りや個別支援を組織的に行う。	①月1回の情報交換を行い、組織的に対応する。	教育相談	A	A
		②週1回定期的にスクールカウンセラー（SC）が来校し相談に当たる。外部専門機関と連携した支援体制を整備する。		A	
		③面談週間で全生徒への面談を行い、支援が必要な生徒や、悩みを抱える生徒の把握に努めるとともに、必要に応じて個別支援計画を作成する。		A	
		④教育相談にかかわる研修会を実施する。		A	
		⑤hyper-QUを年2回実施し、生徒の実態把握に努める。		A	
	いじめの早期発見とその後の迅速な対応により実態の把握に努め、適切な対応を組織的に行う。	①いじめ防止委員会でいじめアンケート（学校生活アンケート）を実施し、情報共有に努めるとともに、いじめ対策委員会が必要な対策について検討するなど、組織的に対応する。 ②SNS教育プログラム、SOSの出し方に関する授業等を実施し、いじめの未然防止等に努める。	いじめ防止委員会	A	A
校舎内外の美化に努める。	①日頃の清掃を徹底する。また、屋外清掃や大清掃を実施し、校舎内及び校地全体の美化に努める。	美化	A	A	
キャリア教育の推進と進路希望の実現	キャリア教育を推進し、進路意識を高める。	①各学年の進路指導部を中心に学年と進路の連携を図り、生徒全員に年5回以上の進路ガイダンス、進路全体指導などを行い、進路意識を高める。	進路指導部	A	A
		②1年生の企業見学、2年生のインターンシップ等を実施し、進路希望を具体的に検討し、決定するよう指導する。		A	
		③進路の手引きを作成し、進学や就職の流れや必要な準備について指導する。		B	
		④進路指導室内の資料を整理し、進路に関わる必要な情報を確実に伝える。		B	
進路希望の実現を図る。	①進路希望調査や面談などにより生徒の進路希望の把握に努め、各学年、必要に応じてジョブディネーターの派遣を申請し、連携して指導、支援を行う。 ②面接指導や小論文指導を計画的に実施する。		A	A	
生徒会活動や奉仕活動により社会性や豊かな人間性を育む	生徒の主体的な活動を支援することで生徒会活動を活性化し、人間的な成長を促す。	①各種生徒会行事を執行部を中心に主体的に計画立案し、準備・運営を行う。	生徒会	A	A
	奉仕活動とおしてボランティア精神を身に付ける。	①老人介護施設「清心荘」への訪問活動（感染症の状況による）により、ボランティア精神の高揚を図る。	ボランティア	C	C
家庭や同窓会、地域に対して本校の教育活動を積極的に公開するとともに、連携を更に深める	PTA活動の更なる活性化を図る。	①PTA総会と併せて、保護者ニーズに応えられる説明会・講演会を実施し、保護者と学校の協働体制づくりを強化する。	教務部	B	A
		②PTAによる各種の主催・共催行事への参加率を上げる。		A	
		③PTAだよりの内容を充実させ、広報活動を活発にする。		A	
	同窓会との連携を深める。	①朴素忌講演会を開催し、同窓会と連携する中で生徒の本校への理解を促す。	教務部	A	A
		②朴素記念館での学習を通じて創立者についての生徒の理解を深める。	1学年	A	
	各種たよりやホームページなど学校からの情報提供に努めるとともに、学校案内、学校説明会など工夫改善を行う。	①ホームページなどを活用して、積極的に情報発信を行う。	教務部	A	A
②中学生体験入学で十分なアピールができるよう、学校説明や体験授業などの内容を工夫する。		A			
成果	さまざまな課題を抱えた多様な生徒に対し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、ジョブコーディネーター等とも連携して、全教職員が一丸となって組織的で丁寧な指導・支援を行うことができた。また、上越教育大学大学院の学校支援プロジェクトを活用し、授業に「学び合い」の手法を導入することで、生徒の主体的・対話的で深い学びを促す授業を積極的に実践することができた。新型コロナウイルス感染症の影響で中止や延期、内容の変更を余儀なくされた行事等もあったものの、実施方法を工夫することで対応し、一定の成果を上げることができた。3年生の就職希望者の全員が地元企業に採用され、将来の地域活性化に活躍し得る人材育成に貢献することができた。			総合評価 A	